

72. 「保育園の保育について」～非認知的能力を育てる～

2017. 3. 1 遠藤清賢

非認知的能力という言葉が保育や教育の世界で見直されています。この非認知的能力を育てることが子どもたちの将来にとって重要であることが世界の乳幼児教育また保育業界において確認されてきています。非認知能力というのは目標を達成するための力、自分を制御するための力、他者と協力するための力、のこを表現しています。もっと具体的には忍耐力、自尊心、自信、思いやり、自制心、等の能力のことです。早期からの認知的教育、たとえば知識能力を高めるための計算や読み書き等を行った子どもたちと、そうでない子たちを比較した場合、早期教育を受けた子のIQは一時的に高くなりますが小学校高学年くらいになるとそのIQの差は殆ど無くなるという結果が出されています。そして非認知的能力の対応を受けた人たちの40年後の状態を、そうでない人たちと比較した場合、非認知的能力の対応を受けた人たちの方が経済的にも、精神的にも良い結果に繋がっていることが確認されています。

世界は早期教育を行うことより、非認知的教育、保育を行うことが大切であるという方向に移行しているのです。特に幼児期に人間の精神や生活のあり方、人間関係の基礎を身に着けることには、その子の将来に大きな影響を及ぼしているのです。自制心や忍耐力を強制的に躡けるのではなく、また叱るとか、注意などではなく豊かな愛情と許し、受容される体験を通して非認知的能力は身につくのです。心から楽しむ体験や仲間との遊びや様々な体験によって、同じく、家族からの揺るぎない信頼と愛情によって他者を信じ、信頼し、支え支えられる関係性、社会性を身に着けることができるのです。

日本の教育は子どもたちを学力によって評価し、成績によって成長を判断しています。日本では学力の向上を目指すことに力を注いでいます。世界の方向とは逆行した教育がなされています。非認知的能力は目に見えません。見えない能力をしっかりと確認できる保育能力を持つことが保育園は求められます。家族も同様に子どもたちの見えない能力を確認できる機能を持つことが求められます。

保育園は意識的ではなく通常の保育で非認知的能力を高める働きを実践してきました。子どもたちの主体的な活動を尊重しながら、豊かな愛情による言葉がけや遊び、様々な体験、絵本や歌、リズム、運動、そして食育活動等はまさに非認知的能力を高める保育です。私たちはずっと以前からの保育において、子どもたちの将来に、また成長に繋がる保育は、信頼と自己肯定感によって形成される命を大切にする保育であると確信を持って取り組んできました。保育は学力を向上させる教育ではなく、心の教育であり、非認知的能力を身に着けることが保育であり、これが子どもたちにより良い未来をもたらすことになるということが改めて確認されたのです。



きな粉だんご 材料 4人分

上新粉40g、白玉粉60g
砂糖 小さじ1、
きな粉 小さじ1

作り方

1. 上新粉と白玉粉を混ぜ合わせ、ぬるま湯を加えて耳たぶくらいの固さにこねる。
2. 食べやすい大きさに丸め、熱湯で茹でる。
3. 浮き上がってきたら水にとってさまし、水気を切る。
4. 砂糖ときな粉を混ぜ合わせ、だんごにまぶす。



奥州市江刺区男石1丁目3-5 社会福祉法人 江刺保育園 子育て支援事業

電話 0197-35-1522 ファックス 0197-35-1741

子育て広場「友遊広場」専用電話 090-7327-9686

Eメール esahoiku@pup.waiwai-net.ne.jp ホームページ <http://www.esashihoikuen.com/>